



「それぞれの金メダル」

今年オリンピックイヤー、アテネでは多くの日本人が金メダルを手に入れました。金メダルというとトップクラスのアスリートが手にするものというイメージがあるのではないのでしょうか。日常生活においては縁のないもの、私も勿論「金メダル」なるものはひとつも持っていません。何かの金メダルを持っている人のほうが全体の割合からいっても少ないでしょう。そう「金メダル」は1番になった人だけが手にできる特別なものですから。ですが・・・「金メダル」そのものは誰でも簡単に作れるものです。

先日取材に伺った記章・マーク店では、名前入りの金メダルは500円から作れるそうなので1個からでも注文を受け付けてくれるとのこと、それならば番組でもつくってしまおうということでもちあがったのが「ラジオで繋ぐ金メダル」というラジオ祭りの企画でした。これは、番組特製の金メダルを作り、金メダルを贈りたい人を募集したものです。ラジオ祭り、今年は10月31日曜日、5時間の生放送。様々な企画と催しがあったわけですが、私はラジオカー担当で金メダルのコーナーへ応募いただいた方の中から抽選で選ばれた方のもとへ金メダルを届ける役目となりました。

1件目は4世代が住む大家族のお宅でした。そして金メダルはお嫁さんから義理のお父さん84歳への感謝をこめてということでした。嫁いで40年ちかく本当の娘のよう

にかわいがってくれたそうです。曾孫にあたる2歳の女の子に金メダルをかけてもらい本当にうれしそうで、そのお顔はまさにゴールドスマイルでした。2件目は娘さんからお母さんにとということでしたが、お留守で直接お渡しすることはできずポストに入れさせていただきました。

3件目は亡くなったお父さんへという方の家に行きました。今回の企画への応募は、亡くなったお父さん、お母さんへ金メダルをあげたいという方もたくさんいらしたのですが、代表して高松市内に住む女性のご自宅へ伺いました。脳梗塞で急に亡くなったというお父さんへ「ありがとう」という言葉を直接言えなかったことが今でも心残りとおつりと語られる姿が私の心にもズシリとききました。お届けした金メダルを仏壇にかざりますと喜んでくださいました。

4件目はお祖母ちゃんから高校生のお孫さんへの金メダルでした。その女性は2人の姉妹のお孫さんがいます。今回の金メダルは姉妹のお姉ちゃんの方に贈りたいというものでした。妹は活発でスポーツも万能、器械体操の大会で優秀な成績も残しています。そんな妹を陰で支える姉の方に贈りたいというものでした。「おばあちゃんはちゃんとあんた達のことをみているよ」と優しいまなざしが印象的でした。

最後の5件目はご主人へ金メダルを贈りたいという奥様のもとへ、金メダルとは縁のない人ではあるけれど家族のために一生

つもちゃんの

ドハマ
バタ
ラジオ日記

懸命な姿に感謝しているという奥様、日頃はなかなか言えない気持ちを金メダルにこめれば・・・とはにかみながらおっしゃっていただきました。

今回「金メダル」をお届けしてそれぞれ形はちがいますが、『家族』っていいなあと・・・とひしひしとかんじました。家族だからこそ甘えもあり、わがままも許してくれるということもありますが、しっかりと見ていてくれている人がいるという強さや

おもいやりの心、そう愛情をひしひしと感じる時間でもありました。口にだして言い出せない「感謝の気持ち」、時にはきちんと言葉に出して伝えることも大切です。そんな時オリジナルの「金メダル」を添えてというのもいいのではないのでしょうか？そうです。みなさんの身近にも金メダリスト候補がたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

お す す め 取材日記

牟礼町王墓に住んでらっしゃる元船大工の松本芳太郎さん（75歳）を訪ねました。

船大工さんだけあっていろんなものを作っているらしいです。

例えば、船・・・本物の船のミニチュア版です。それから水車、家の門 壁 小屋、とどまるところをしりません。定年後の時間を有意義に楽しそうに趣味の世界が広がっているようにおもいました。その松本さんを支えるのが奥さんです。

奥さんの毎日「食事には気をつけているの」という言葉を受けて松本さんが「女房の食事以外はおいしくない」とぼろり・・・こんな素敵なお夫婦になりたいものです。

